

●夜。意識を取り戻す主人公。

寝てるのに…

こんな硬くなるなんて…不思議

んっ…ああ、起きたの

まだ動かないほうがいいよ

●神社の本殿の中にいることに気づく主人公。

●謎の少女（影^{えい}）にぎこちなく手コキをされている。

●※影^{えい}は処女なので辿々しい。

今、その…

手で弄り始めた
ばかりだから

んっ、…っ、んんっ
見てわかんない？

いや…わかんないか

はあ…

ここは里の神社
アタシが貴方を

ここまで運んだの
それで今…儀式の最中

貴方、この里に来てから
意識を失ったり

体調が優れないでしょ？

それ

鬼の瘴しょうき気にあてられてる証

だから今、瘴しょうき気や穢けがれを祓はらってるの

私の身体は…神聖だから

こうやって、肌を重ねて

その…せ、性的な行為をすれば

貴方は楽になるはず

●「君は何者なの？」と尋ねる主人公。

アタシ…？

アタシは…そうね

神様…みたいなものかな

だから貴方の穢けがれを浄化できるの

とにかく

今はじつとして

悪いようにはしない

手でするのって…

これで合ってる、よね？

初めてだから…

確認というか

…っ

いいでしょ別に
始めてだから
ちゃんと出来てるか
心配だったの

●「すごく気持ちいいよ」と答える主人公。

そ、そう…？

まあアタシ

神童って言われてたから
当然か…

それにしても

浄化が追いつかないっ

貴方…

この里に来てから
どれだけ

交わったのよ…っ

仕方ない…

もっと濃い接触をしないと

…っ

これ、本当に舐めて

大丈夫なのかな…

ああもう…迷ってる場合じゃない

●意を決してフェラを始める影。^{えい}

ちゅ…れろ、れろお

んっ…、ふーっ、ふーっ

なに、これ

すごい変な味…

ううう…じゆる

くちゅ、くちゅ、ちゅ

じゅぷ…れろ、れろ…

れろ、あ…

言っとくけど、アタシには

邪な気持ちとか、じゆる

無いからね…っ

勘違い、しない

よーに…じゅ

はむちゅ…んっ、ちゅっ、ちゅぱっ

ちゅ、くちゅ、れろ…くちゅ、ちゅ

んちゅ…ちゅ、れろ、れろ

んちゅ…ちゅぱっ、じゅ

れろ、じゅ…じゆる、じゅ、じゆる

じゆるるっ…んっ、じゅぱっ

よし…

段々慣れてきた

かも…っ

んはあ…はむっ、れろ、れえろ

ちゅ、じゅる…じゅ、じゅぷ

じゅっぽ、じゅぽっ、じゅずず

じゅ…

くちゅ、くちゅ、ちゅるる

ちゅぱっ、じゅ、じゅる

じゅるる、じゅ、じゅ、じゅっ
じゅずず…ぱっ

何その顔…

随分と、まあ

気持ちよさそうね？

すけべ
…助平

はむっ

じゅぷっ、じゅぷっ、じゅぷっ

じゅぷっ、じゅぷっ、じゅぷっ

じゅ、じゅるる…んはあ

じゅばっ、じゅばっ、じゅばっ

ずずず…、じゅる、じゅるる

じゅぽっ、じゅぽっ、じゅ

じゅぽっ、じゅぽっ、じゅぽっ

はむちゅ、じゅ…じゅる、じゅる
れろれろれろ…ちゅ、れえーろ

●再度手コキに移行。

その…我慢はしないことね

しゃ、射精…したいなら

いつでもすれば

いいから…

●「出そう」と答える主人公。

え…？

出るの？

ほんとにつ？

ちょ…っ

急に言われても

心の準備が…

●射精する主人公。

ひゃう…！

っ…、…

んっ…、っ…

ねえ…

もう、終わった？

目瞑ってるから…

おし、えて…

●「終わりました」と答える主人公。

はあ…、そう…

●ゆっくりと眼を開ける影。
えい

フン…

初めてだったけど

大したことじゃないわね

貴方こんな簡単に

しゃ、射精い…するなんて

やっぱり雑魚ね…

ん…なにこれ？

髪から何か垂れてきたんだけど

えっ…

これ

精子…？

くくくくくくっ！

ちよつと

話しかけないで

拭いてるからっ

…ふう

何その顔…

全く…

すけべ
助平なんだから…

まあ、その様子だと

体調は回復したみたいね

鬼の瘴気しょうきがかなり

溜まっていたから

危なかった

● 「本当に鬼がいるなんて…」と恐怖する主人公。

そう、鬼…

見たでしょ

普通の人間は

あんな早く受胎じゅたいしない

隠かくれだけじゃない

氷こおり：そして色しきも

この里は：

もう鬼しかいない
驚いた？

まあ、そうよね

別に貴方からすれば
命の危機なんて

感じなかっただろうし

何から話したものかな：

少し昔話をするね

数百年前

この里の人達は

一匹の鬼に唆そそのかされて

土地の神様の

怒りを買ってしまったの

それで

里の者は皆酷みなく短命に

そして男が生まれにくくなった

まあ、簡単に言えば

血筋が先細りする訳

加えて神様の加護が

消えたことで

鬼の瘴氣しょうきが蔓延まんえん

結果、辛うじて

生き残っていた

女兒達が鬼と化した

孕み、腹を膨らませて

増え続ける

満たされることのない渴望から

他者を蔑さげすみ煽あおることで

自己を満たそうとする醜い習性

まるで地獄に落ちた亡者もうじや

アタシは餓鬼がきと呼んでる

このままだと

貴方は精気が無くなるまで

搾り尽くされて死ぬ

いい？

この里は常世とこよの一部なの

餓鬼がきという鬼に支配され

永遠の時間が流れている

そんな異界に

貴方は迷い込んだ

祭りのことは知ってる？

そう、七日の祭りなにか

今日で三日目が終わるみづかめ

この祭りが終わるまでは

貴方はこの里から出られない

だからそれまで

餓鬼がきと交わるのはなるべく避けてまじ

どうしようもない時は

また清めてあげるけど

自衛はしてね

ふう…

とりあえず今日はもう

屋敷に帰りなさい

朝になって

客人が居なくなったら大騒さわぎよ

今日ここで聞いたことは

誰にも知られないように

特に里長しの色いろにはね

アイツだけには…

絶対知られちゃいけない

●神社の本殿の扉を開ける音。

じゃあ、さよなら

●名前を尋ねる主人公。

名前…？

アタシの？

そんなこと聞いて

何の意味があるの？

はあ…

…影 えい

アタシの名前

影 えいって書いて、えいって読むの

それだけ

じゃあね…